

Gulf of Alaska Keeper (アラスカ湾の番人)

GoAKはアラスカの海岸線で海洋漂着物の清掃に尽力しています。私たちは、日本を襲った津波による想像を絶するほどの大量の漂着物に対して奮闘しています。GoAKは過去10年間に、息をのむほどの野性の生命にあふれたアラスカの海岸線から約100万ポンド(約45万トン)のプラスチックを取り除いてきました。「アラスカ湾の番人 Gulf of Alaska Keeper」は501(c)(3)法人(註:日本でいうところの、公益法人)の非営利団体であり、5名の取締役と3艘のボート、そして8名の働き者のクルーから成り立っています。

アラスカの海岸線は広大で、その大部分は道路を使ってはアクセスできません。まれには付近の陸上の水源から来るものもありますが、ほとんどの海洋漂着物は海流によってアラスカの人里離れた海岸に運ばれています。アラスカの広大な海岸線に流れ着く、ほとんどの海洋漂着物は近海漁業あるいは外国籍の船、商業漁業船団、そして外国その他からの日用品廃棄物です。この漂着物は潮間帯の群落構造を破壊したり、海洋ほ乳類を窒息させたりする可能性があり、また、魚類、鳥類、ほ乳類が摂取する可能性があります。さらに、プラスチック製品の海洋漂着物は豊かな潮間帯生態系に有毒な化学物質をもたらすかもしれません。「アラスカ湾の番人 (GoAK)」のクルーとボランティアの人々はこの海岸線から海洋漂着物を取り除く活動を2001年に開始し、今も継続して行っています。2009年、GoAKはPrince William SoundとGore Point地域のKenai Peninsula沿いの海岸を清掃しました。

現在、そして将来

GoAKのクルーは現在、北部アラスカ湾海岸の海岸清掃をDay HarborとPWSの間で行っています。ここは、荒涼とした、無人の海岸線であり、安全に停泊することはできません。作業をするには厳しく、きついところですが、アラスカ湾の最後の海岸線であり、私たちはエクソン・バルディーズ号原油流出事故信託評議会との契約で、今シーズン、清掃を完了させなければなりません。そのプロジェクトは9月初旬に終了するはずですが、GoAKは、次に、北部Montague島とPWSの内側について、秋の嵐がその年の私たちのフィールドでの活動を閉め出す前に、少し時間を取って、津波漂着物の清掃を行う予定です。私たちは今シーズン、既に、上陸用舟艇10杯分、つまり400立方ヤード(約304立方メートル)分の、ほとんどがプラスチックの海洋漂着物を港に運搬しています。私たちは、シーズン終了前に、さらに100立方ヤード(約76立方メートル)分を収集するでしょう。

私たちの海岸に流れ着く、圧倒的な量の津波漂着物を前にして、海洋漂着物清掃プロジェクトの将来はどうなるのか、予想するのは困難です。GoAKは次の2シーズンはEVOSTCの計画を実施します: 2013年夏Barren島、2014年夏Montague島のア

ラスカ湾海岸。しかし、有害物資を含んだ大量の津波漂着物が私たちの海岸にあふれかえることを考えるとこの清掃計画は変更を余儀なくされるかもしれません。次のシーズン、アラスカ州と連邦政府はNOAAを通じて、津波漂着物清掃活動に多大に関与することになりそうです。GoAKIは相当量の津波漂着物が向こう4～6年にわたって私たちの海岸線に影響を与え続けるだろうと予想しています。この問題と戦うには、広域的、効率的、かつ持続可能な清掃への取り組みを開始しなくてはなりません。GoAKIは可能な限りの援助を行い、それに従って、来たる数シーズンはその清掃計画に歩調を合わせるでしょう。忠実なるサポーターのみなさんに、わたしたちは感謝の意を述べます。そして、わたしたちは、将来、再び、みなさんとフィールドでお会いできることを希望しています。